



カンヌの国際音楽産業見本市MIDEMで「クラシック音楽界の新星」と評価されたフランス人ヴァイオリニスト。国立バリ音楽院でジャン=ジャック・カントロフ、ジャン・ムイエルに師事し、審査員特別賞付きプルミエ・プリを得て同音楽院を卒業した。フランスの著作権管理団体であるSACEMより「ジョルジュ・エネスコ賞」を、ナテクシス財団より同財団賞を受けたほか、ヘンリック・ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクール（ポーランド）、ベオグラード国際音楽コンクール（セルビア）、ヴィオッティ国際音楽コンクール（イタリア）など数多くのコンクールで賞を得ている。

ニューヨークのリンカーン・センター、モスクワのチャイコフスキー・ホールなど世界各地の主要なホールでリサイタルを行うほか、ラ・ロック・ダンテロン（フランス）、「春の音楽祭」（モナコ）、ラヴィニア（アメリカ）、シントラ（ポルトガル）、ダボス（スイス）などの音楽祭に参加。また、ソリストとしてフランス国立管弦楽団、メキシコ フィルハーモニー管弦楽団、ミラノスカラ座室内管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル 金沢などと共演した。室内楽の分野では、ユーリ・バシュメット（ヴィオラ）、レオン・フライシャー（ピアノ）、オーギュスタン・デュメイ（ヴァイオリン）、ジェラルール・コセ（ヴィオラ）らと共演しており、その「繊細かつ情熱的な演奏」が高く評価されている。一方、ジャズにも深い関心を持ち、タンガニア四重奏・ピアソラ・フォーエバープロジェクトの一員として、アコーディオン奏者であるリシャール・ガリアーノと定期的に共演している。

近年では、ニコロ・ガリアーノ製作のヴァイオリン（1740年ナポリ）を演奏したことが話題となった。また、2007年には「ジェルブロワにおける楽興の時（Les Moments Musicaux de Gerberoy）」の芸術監督に就任している。

2017年春、ラ・フォルジュルネ新潟に出演し、好評を博した。



©Port imagine

東京音楽大学付属高校、パリ・エコール・ノルマル音楽院、イモラ音楽院（イタリア）、国立リヨン音楽院大学院で学んだ後、シャンティイ音楽院、ノワイヨン音楽院、エコール・ノルマル音楽院、国立ニュー・カレドニア音楽院などでピアノ教授を務める。

第24回新潟県音楽コンクール優秀賞、第1回ウィーン音楽コンクール・イン・ジャパン高校の部第2位、フランスUFAMコンクール室内楽部門第2位などを受賞。

南仏ロックダンテロン・ミュージック・フェスティバル、三善晃プロデュース「響き合うピアノ」、パリ日本文化会館「日本のピアノの若き才能」、大阪ABC新人演奏会、「ラ・フォル・ジュルネ新潟」、「シュマン・ドゥ・ミュージック」音楽祭（リグジェ）などでのソロ演奏のほか、新潟交響楽団、中国・アモイ市交響楽団、ブリュッセル室内管弦楽団、国立リヨン音楽院管弦楽団などとのコンチェルト共演、また室内楽では、河原泰則（コントラバス）、ジョゼフ・カレイア（テノール）、ジョン・ヴォンダシ（バリトン）、井上静香（ヴァイオリン）、フランソワ・サルク（チェロ）などの各氏やリジェ弦楽四重奏団との共演など数々の演奏実績をもつ。

これまでに、野本寛子、相馬上子、関根有子、ジェラルール・フレミイ、ラザール・ペルマン、ピエロ・ラッターノ、ピエール・ポンティエ、フランス・クリダの各氏に師事。

現在、フランス・ナント市に在住し、女性作曲家や無名の作曲家の作品を積極的に取り上げた演奏活動をフランス各地で行っている。

オフィシャル・サイト <http://shihonarushima.jimdo.com/>

